

普及技術

分類名〔水稻〕

普 1	いもち病抵抗性に優れる飼料用米向け 多収品種「東北 244 号」
-----	--

宮城県古川農業試験場

要約

飼料用米向けの多収品種「東北 244 号」は、従来の飼料用米向け多収品種「東北 211 号」と比べて収量性、いもち病抵抗性が優れる晩生の水稻粳品種である。

普及対象：飼料用米を栽培する土地利用型経営体
普及想定地域：山間高冷を除く県内全域

1 取り上げた理由

宮城県内での飼料用米生産では、国による飼料用米一般品種に対する助成単価の段階的な引き下げなどの情勢を踏まえ、飼料自給率向上と生産者の収益性確保を図るため、飼料用米多収品種の一層の普及を目指している。一方、これまで県内で多収品種として作付推進されてきた晩生で多収の「東北 211 号」は、いもち病真性抵抗性遺伝子 *Pib* を有し、普及当初は葉いもちに対して一定の抵抗性を示していたが、普及面積の拡大に伴い *Pib* を有する品種を侵すレースによる発病が目立ち始め、被害が拡大する事例もあり普及面積が伸び悩んでいる。

「東北 244 号」は、主食用品種との識別性があり、「東北 211 号」と比べて、収量性、いもち病抵抗性が優れることから、令和 7 年 11 月に宮城県における飼料用米向けの多収品種（知事特認品種）として認定され、飼料用米での収益性確保に寄与する品種であるため、普及技術とする。

2 普及技術

（1）来歴

「東北 244 号」は、宮城県古川農業試験場において、いもち病ほ場抵抗性に優れる極多収の飼料用米向けの品種の育成を目標として、晩生で大粒の多収品種「東北 211 号」を母、いもち病抵抗性に優れる「東北 224 号」を父として、平成 28 年 7 月に人工交配を行い、その後代から育成した水稻粳品種である。

（2）特性の概要

- イ 収量性は「東北 211 号」より優れる多収である（4 か年平均の粗玄米重は 77.2kg/a）。玄米千粒重は「東北 211 号」より軽く「つや姫」より重く、心白粒や乳白粒が多いため、「つや姫」等の主食用品種との識別性がある。（表 1）
- ロ いもち病真性抵抗性遺伝子型は“*Pia*”及び“*Pii*”と推定され、ほ場抵抗性は葉いもちが“かなり強”、穂いもちが“強”である。（表 1）
- ハ 出穂期は「東北 211 号」より 2 日程度早く、成熟期は 1 日程度遅く、宮城県での早晩性は“晩生”である。（表 1）
- ニ 稈長は「東北 211 号」より短く、穂長はやや長く、穂数は多く、草型は中間型である。（表 1）
- ホ 耐倒伏性は“強”、穂発芽性は“中”、障害型耐冷性は“やや強”である（表 1）。

普及技術 1 いもち病抵抗性に優れる飼料用米向け多収品種「東北 244 号」

表 1 特性一覧

品種名			東北244号	
交配組合せ			東北211号／東北224号	
特性			長所 1. 多収である（「東北211号」を上回る）。 2. 葉いもちほ場抵抗性が“かなり強”である。 3. 耐倒伏性が“強”である。	短所 1. 穂発芽性が“中”である。 2. 白葉枯病抵抗性が“やや弱”である。
調査地			育成地：大崎市（宮城県古川農業試験場）	
調査年次			令和4～7年の4年平均	
試験区 ^{注1)}			極多肥区	
品種名			東北244号	東北211号
早晚性(出穂期)			晩生	晩生
草型			中間型	偏穂重型
出穂期（月．日）			8. 07	8. 09
成熟期（月．日）			9. 20	9. 19
稈長（cm）			90. 1	98. 4
穂長（cm）			23. 0	22. 1
穂数（本／m ² ）			405	335
芒の長さ			極短	中
ふ先色			白	白
外穎の色			黄	黄
脱粒性			難	難
耐倒伏性			強	強
穂発芽性			中	中
耐冷性			やや強	強～やや強
耐病性	いもち病	真性抵抗性遺伝子型	<i>Pia</i> 、 <i>Pii</i>	<i>Pia</i> 、 <i>Pib</i>
		葉いもちほ場抵抗性	かなり強	不明
		穂いもちほ場抵抗性	強	不明
		白葉枯病ほ場抵抗性	やや弱	弱
玄米	粗玄米重（kg/a）		77. 2	74. 3
	収量比（％）		104	100
	千粒重（g）		24. 3	27. 2
	タンパク質含有率(%) ^{注2)}		6. 7	6. 8
白米	アミロース含有率(%) ^{注3)}		15. 0	15. 3
玄米品質	総合（1～9） ^{注4)}		4. 7	5. 1
	心白（1～5） ^{注4)}		2. 5	3. 3
	乳白（1～5） ^{注4)}		3. 1	3. 3

注1) 各試験区のN成分は次のとおり。

極多肥区(令和4年)：1.0kg/a(基肥:0.7、追肥:0.3)、極多肥区(令和5年)：0.9kg/a(基肥:0.4、追肥:0.5)

極多肥区(令和6、7年)：1.1kg/a(基肥:0.5、追肥:0.6)、標肥区(令和5年)：0.4kg/a(基肥:0.4)

注2) タンパク質含有率は、近赤外成分測定装置(インフラテックNOVA)で玄米を測定した乾物当たりの含有率(令和4～7年の4年平均)。

注3) アミロース含有率は、オートアナライザーⅢ型で、白米粉(90%搗精)を分析した現物当たりの含有率(令和5、6年の2年平均)。

注4) 玄米品質は達観による評価で、総合は良(1)～不良(9)、心白、乳白は無(1)～甚(5)。

3 利活用の留意点

- (1) いもち病ほ場抵抗性は葉いもちが“かなり強”、穂いもちが“強”であるが、いもち病の早期発見と適正な防除に努める。
- (2) 耐冷性は“やや強”であるが、危険期に低温が予想される場合は、深水管理に努める。
- (3) 穂発芽性は“中”であるので、適期刈取りに努める。

(問い合わせ先：宮城県古川農業試験場作物育種部 電話 0229－26－5105)

4 背景となった主要な試験研究の概要

（１）試験研究課題名及び研究期間

水稻品種の育成（平成 23 年～）

新規需要米栽培技術の確立（令和 6 年度～）

（２）参考データ

（３）発表論文等

イ 関連する普及に移す技術

（イ）飼料用米向け多収品種「東北 244 号」の収量構成要素の目安（第 101 号普及技術）

（ロ）耐冷性に優れ大粒で飼料用米向けの多収性専用品種「東北 211 号」（第 91 号普及技術）

ロ その他

千葉文弥・遠藤貴司・早坂浩志・佐藤浩子・中込佑介・石森裕貴・町直樹・島津裕雄・我妻因信・木皿正人・阿部定浩・菅原冬葵・千葉遼太郎・増田秀平（2026）、飼料用米向け水稻新品種「東北 244 号」、宮城県古川農業試験場研究報告第 19 巻、p 1－15

（４）共同研究機関

なし